

6:20 後になって、あなたの息子があなたに尋ねて、「私たちの神、主が、あなたがたに命じられた、このさとしとおきてと定めとは、どういうことか。」と言うなら、

6:21 あなたは自分の息子にこう言いなさい。「私たちはエジプトでパロの奴隷であったが、主が力強い御手をもって、私たちをエジプトから連れ出された。

6:22 主は私たちの目の前で、エジプトに対し、パロとその全家族に対して大きくてむごいしるしと不思議とを行ない、

6:23 私たちをそこから連れ出された。それは私たちの先祖たちに誓われた地に、私たちをはいらせて、その地を私たちに与えるためであった。

6:24 それで、主は、私たちがこのすべてのおきてを行ない、私たちの神、主を恐れるように命じられた。それは、今日のように、いつまでも私たちがしあわせであり、生き残るためである。

6:25 私たちの神、主が命じられたように、御前でこのすべての命令を守り行なうことは、私たちの義となるのである。」

私たちの信仰を子供たちに伝えることができるというのは幸いなことです。それには「…どういうことか。」と尋ねてもらえることが必要です。それは信仰がライフスタイルになっているということです。クリスチャンでありながら、子供に親の信仰の姿を見せていないとしたら、それでは信仰継承は無理というものです。

親の祈る姿、聖書を読む姿、礼拝に行く姿、教会で奉仕をする姿を見られる子供は幸いです。そして、もしも信仰について聞かれたら、「私たちを連れ出された。」と、救いの事実を語りましょう。

また「その地を私たちに与えるためであった。」というように、神の祝福を語りましょう。また「命令を守り行なうことは、私たちの義となる」というように、正しい生き方を語りましょう。

私たちの子供とは、パウロがオネシモを生んだと表現したように、肉の子供だけでなく、信仰の次世代も意味します。次世代を、信仰の生き様によって育てましょう。あなたにとってそれは誰でしょうか。具体的にどのように育てると良いでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

